

令和4年2月の札幌圏を中心とした大雪に係る関係機関の対応検証（第2回会議）

1 趣旨

今回の経験を今後に活かし、大規模災害時に地域全体で対応するため、北海道雪害対策連絡部に雪害対応検証チームを設置し、検証を実施。

2 気象概況

(1) 2月5日から6日にかけて、石狩湾で発達した雪雲が札幌市を中心とした石狩地方へ断続的に流入し、局地的な大雪となった。

札幌市中央区では**24時間降雪量が60cm**に達し、1999年の統計開始以来の記録を更新した。**最深積雪は133cm**となり、2014年以来8年ぶりに100cmを超えた。

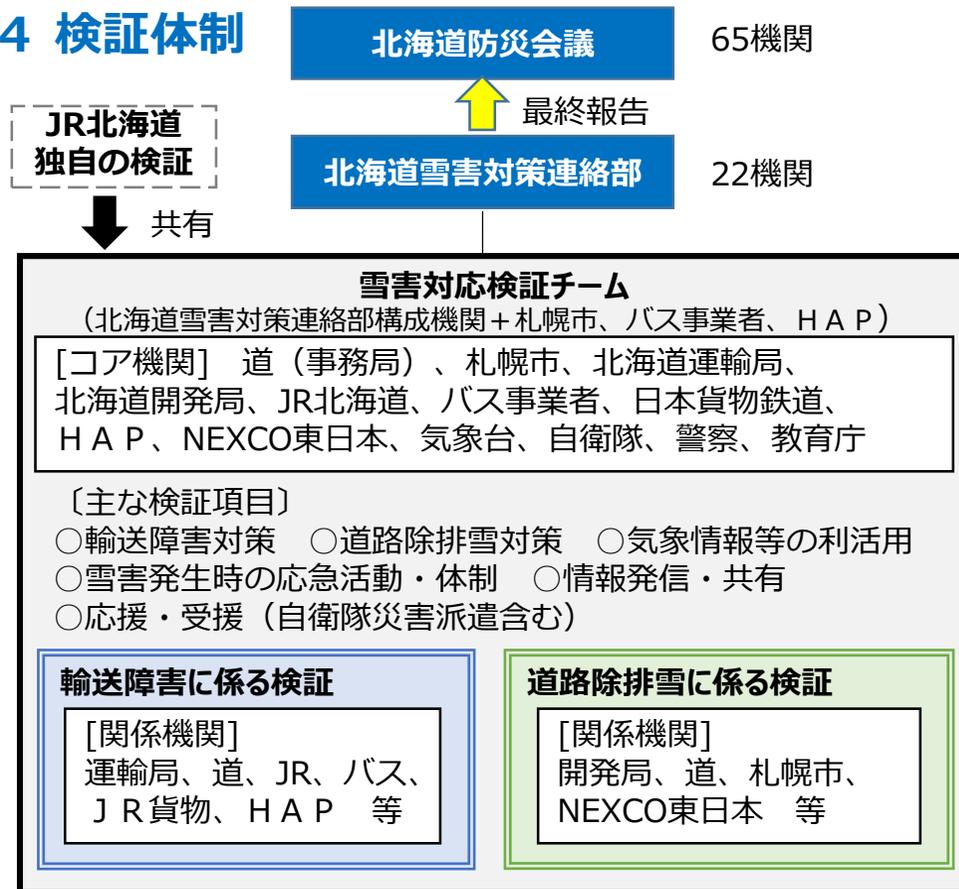
(2) 2月20日から22日にかけて、急速に発達した低気圧が千島近海へ進み、北海道付近は強い冬型の気圧配置となった。石狩地方では北西の風が雪を伴い強く吹くと共に、強い雪雲の流入が続き大雪となった。

最深積雪は恵庭市で154cm、千歳市で123cmとなり、統計開始以来の記録をそれぞれ更新した。

3 大雪による影響

- ・ JRの運休（2月上旬3,525本、下旬3,559本の運休）
- ・ バスの運休
- ・ 千歳空港での滞留（最大6,000人の滞留）
- ・ 道路除排雪の遅れ
- ・ 休校（上旬103校、下旬414校）
- ・ 生活への影響（ゴミ収集、宅配サービスの遅延など）
- ・ 人的被害（除雪中の事故）
- ・ 建物被害（大雪後の建物の倒壊）
- ・ 産業被害（ビニールハウス・畜舎の破損、生乳集荷の遅延）
- ・ 物流への影響（JR貨物、宅配、郵便の遅延）
- ・ 冬の北海道のイメージへの影響 など

4 検証体制



5 スケジュール

- ・ R4.2.22 第1回会議 検証チーム設置
随時検討
- ・ R4.3.16 JR北海道 検証と改善策（中間報告）
- ・ R4.3.30 第2回会議 主な論点と対応の方向性
- ・ R4.5中旬 報告書（案）取りまとめ
- ・ R4.6 北海道防災会議へ報告 関係機関で共有
- ・ 降雪期前 関係機関による連携確認のための訓練

主な論点及び対応の方向性

各機関の対応や課題を聞き取り、6項目に分類し、「主な論点」と「対応の方向性」を整理した。今後、各機関と共に「主な論点」の補強や「対応の方向性」に基づく具体的な取組を更に検討する。

項目	主な論点	対応の方向性
1 輸送障害対策	<ul style="list-style-type: none">・ J Rの除雪体制の強化と外部応援・ 新千歳空港での滞留者の発生・ 高速道路等の除雪状況の把握・ バスの運休や遅延の発生	<ul style="list-style-type: none">・ 外部応援の適否の検討・ 代替輸送の確保・ 関係機関相互の情報共有・ 除雪作業優先区間の検討
2 道路除排雪対策	<ul style="list-style-type: none">・ 平時や事前の除雪作業・ 幹線道路やバス路線の除雪・ 各機関の除雪情報の把握・ 雪堆積場の確保	<ul style="list-style-type: none">・ 作業方法やタイミングの検討・ 除雪作業優先区間の検討・ 各道路管理者の連携強化・ 大雪を考慮した雪堆積場の準備
3 気象情報等の利活用	<ul style="list-style-type: none">・ 予測困難な大雪時の対応	<ul style="list-style-type: none">・ 関係機関の情報共有体制強化
4 雪害発生時の応急活動・体制	<ul style="list-style-type: none">・ 雪害対策連絡部の役割・ 大規模イベント時の旅客対応	<ul style="list-style-type: none">・ 雪害発生後の役割対応の充実・ 観光客対応に係る関係機関の役割や対応の具体化
5 情報発信・共有	<ul style="list-style-type: none">・ 情報発信の遅延等・ 雪害対策連絡部の情報共有	<ul style="list-style-type: none">・ 雪害情報の発信強化・ 雪害対策連絡部の情報共有強化
6 応援・受援	<ul style="list-style-type: none">・ 自衛隊の災害派遣の判断基準	<ul style="list-style-type: none">・ 災害派遣の三要件に係る関係者間の共通理解の深化